

年表

| | |
|---------------|---|
| 1857 (安政4) | 大島高任、大橋に洋式高炉を築き、12月1日、日本初の連続出銘に成功(後に鉄の記念日となる) |
| 1858 | 高任、橋野に洋式高炉築造(橋野鉄鉱山) |
| 1874 (明治7) | 高任の建言で、日本初の官営製鉄所が釜石に起工 |
| 1880 | 官営高炉操業開始するが、火入れ97日で中止 |
| | 釜石鉄道釜石一大橋間(日本で三番目の鉄道)完成 |
| 1883 | 官営釜石製鉄所廃業 |
| 1884 | 田中長兵衛、横山久太郎来釜。釜石鉱山の一部を借用して製鉄開始 |
| 1885 | 大島式高炉竣工、火入れ。14回失敗する |
| 1886 | 10月16日、49回目で高炉操業に成功(釜石製鉄所起業記念日となる) |
| 1887 | 釜石鉱山田中製鉄所創立。初代所長・横山久太郎 |
| 1894 | 日本初のコクス高炉の操業に成功 |
| 1900 | 第四高炉で、日本初のマンガン鉄、鏡鉄を生産 |
| 1901 | 大島高任、田中長兵衛逝去 官営八幡製鉄所操業開始。釜石から熟練工7名、技術指導派遣 |
| 1903 | 釜石が民間初の銑鋼一貫製鉄所となる |
| 1917 (大正6) | 個人経営から、田中鉱山(株)釜石鉱業所になる |
| 1924 | 田中鉱山(株)、三井鉱山(株)に経営譲渡 |
| 1934 (昭和9) | 日本製鐵(株)設立。同釜石製鐵所発足。鉱山部門は三井鉱山(株)経営の釜石鉱山(株)釜石採鉱所に |
| 1939 | 日鉄鉱業(株)創設。 釜石鉱山(株)釜石採鉱所は日鉄鉱業(株)釜石鉱業所になる |
| 1941 | 釜石製鐵所本事務所完成 |
| 1945 | 7月14日、8月9日の艦砲射撃により被災 |
| 1947 | 昭和天皇が、釜石製鐵所をご視察 |
| 1948 | 釜石製鐵所第10高炉復旧、火入れ |
| 1950 | 会社分割で日本製鐵(株)は解散し、富士製鐵(株)釜石製鐵所となる |
| 1952 | 日鉄鉱業(株)が西鉱床探鉱のため坑道掘削開始(後に仙人トンネルとなる) |
| 1957 | 橋野高炉跡、国指定史跡となる。溶鉱炉百年祭開催 |
| 1961 | 釜石製鐵所で線材工場稼働 |
| 1964 | 釜石製鐵所から東海製鐵(株)への転出者第一陣出発 |
| 1970 | 八幡製鐵(株)と合併、新日本製鐵(株)釜石製鐵所となる |
| 1979 | 日鉄鉱業(株)100%出資で釜石鉱山(株)設立 |
| 1980 | 大型工場休止。44年の歴史に幕 |
| 1984 | 米国金属協会からHL(歴史的遺産)として認定される |
| 1989 (平成元) | 釜石製鐵所第一高炉休止。銑鋼一貫体制130年の歴史に幕 |
| 1993 | 釜石鉱山(株)、鉄鉱石終掘 |
| 1996 | 第一高炉解体 |
| 2000 | 釜石製鐵所、電力卸供給用発電事業の営業運転開始 |
| 2002 | 大島高任没後100周年事業、釜石駅前に高任像建立 |
| 2007 | 近代製鐵発祥150周年。釜石駅前に鉄のモニュメント設置 |
| 2012 | 住友金属工業(株)と合併し新日鐵住金(株)となる |
| 2013 | 橋野鉄鉱山や釜石鉱山などが三陸ジオパークに認定される |
| 2015 | 橋野鉄鉱山が構成資産となっている明治日本の産業革命遺産が世界遺産として登録される |
| 2018 | 近代製鐵発祥160周年記念事業を市民ホールTETTOで行う |
| 2019 | 社名が新日鐵住金(株)から日本製鐵(株)へ |

鉄とともに160年のあゆみ

近代製鉄技術の導入が日本の近代化を推し進め、製鉄業の発展は、産業国家・日本を支えてきました。その発祥の地である釜石は、今日まで、まさに鉄とともに歩んできた「鉄のふるさと」です。

近代製鉄発祥の地・釜石

今から約160年前の安政4年12月1日(西暦1858年1月15日)、盛岡藩士・大島高任は、釜石の大橋に築いた洋式高炉で、日本で初めて鉄鉱石から鉄を作り出す連続出銘に成功しました。この日が日本の近代製鉄の始まりとされ、鉄の記念日に制定されています。

その翌年、高任は釜石の橋野にも高炉を建設し操業に成功しました。これが橋野鉄鉱山であり、国史跡に指定されるとともに世界遺産の構成資産となっています。

明治の初めまでに、釜石地域には13基の高炉が建設され、一大工業地帯となりました。この成功を受け、明治政府は官営釜石製鉄所を建設します。イギリス製の大型高炉が導入され、明治13(1880)年に操業を開始しますが安定操業にはつながらず、わずか2年半で廃止となります。

製鉄所は実業家の田中長兵衛に払い下げられますが、製鉄事業の再開を目指す横山久太郎は、釜石出身の高橋亦助や村井源兵衛とともに小型高炉を築き操業を開始します。48回の失敗を経て、明治19(1886)年10月16日、ついに連続出銘に成功しました。

横山らは、大島高任の「小さく生んで大きく育てる」という堅実な考え方を受け継ぎ、段階的に規模を拡大しながら操業技術を確かなものにしてきました。鈴子、大橋、栗橋などに高炉が増設されるとともに官営時代の高炉を改修し、明治27(1894)年には、日本で初めてコクスを用いた高炉操業に成功しました。

明治34(1901)年、福岡県に官営八幡製鉄所が建設されます。釜石からは技師や熟練工が派遣され、安定操業に貢献しました。

その後、製鉄所や鉱山は、大正、昭和、平成と経営主体や体制の変更、生産規模の拡大と縮小、また、津波や戦災にも見舞われながらも今日まで連綿と操業を続けています。



大島高任像・鉄のモニュメント

世界遺産

「明治日本の産業革命遺産」 と橋野鉄鉱山

日本では、1850年代から1910年までのわずか半世紀の間に、のちに基幹産業となる重工業分野において、工業立国の土台が築き上げられました。その歩みを物語る「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、橋野鉄鉱山など8地域23資産で構成され、平成27年7月に世界遺産に登録されました。



官営釜石製鉄所25t高炉



田中製鉄所高炉



昭和13年頃の釜石製鐵所



昭和47年頃の釜石製鐵所

見学モデルコース

半日コース▶大橋～鈴子

釜石鉱山[5分] → 旧釜石鉱山事務所[30分] → 陸中大橋駅鉄道ホッパー[5分] →
釜石鉄道小川レンガ橋梁[10分] → 山神社扁額[10分] → 大島高任像・鉄のモニュメント[10分]

半日コース▶橋野・栗林

栗林錢座跡[20分] → 栗橋分工場跡[20分] → 栗橋発電所の水路橋[3分] → 橋野発電所[5分] →
鶴の滝発電所[10分] → 橋野鉄鉱山[60分]

1日コース

釜石鉱山[5分] → 旧釜石鉱山事務所[30分] → 陸中大橋駅鉄道ホッパー[5分] →
釜石鉄道小川レンガ橋梁[10分] → 山神社扁額[10分] → 大島高任像・鉄のモニュメント[10分] →
鉄の歴史館[40分] → C20型蒸気機関車[5分] → 栗橋分工場跡[20分] → 橋野鉄鉱山[60分]



■ 営業時間 9:30～16:30
■ 休業日 12/9～3/31(冬季期間)
■ 料金 無料
0193-54-5250



■ 営業時間 9:00～17:00(入館は16:00)
■ 休業日 火曜日、12/29～1/3
■ 料金 小中150円 高300円 一般500円
0193-24-2211



■ 営業時間 9:30～16:30(入館は16:00)
■ 休業日 火・水曜日、12/9～3/31(冬季期間)
■ 料金 小中100円 一般300円
0193-55-5521

かまい 鉄の歴史を辿る旅

Go! Go!
Iron Tourism!

(一社)釜石観光物産協会
釜石観光総合案内所

〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町22-4

TEL.0193-22-5835

FAX.0193-31-1166

E-mail.kamaishi-kankou@taupe.plala.or.jp

釜石観光ガイド会のご案内も承ります

かまなび



スマホはコチラから! ▶

UD
FONT
by MORISAWA

ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、
より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう
配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

① 橋野鉄鉱山 (ユネスコ世界遺産)

1858年、大島高任の指導で盛岡藩が建設。鉄鉱石の採掘場跡、運搬跡跡、鉄を生産する高炉場跡で構成され2015年に世界遺産登録。現存する洋式高炉としては日本最古。



② 鶯の滝発電所

栗橋発電所とほぼ同時期に、釜石電灯(後に盛岡電気工業と合併)が建設した水力発電所。上方の赤柴川を堰き止めパイプでおろす方式で落差を確保した。一般家庭約190世帯分を発電。



③ 橋野発電所

1929年、盛岡電灯(後に盛岡電気工業と合併)が建設した水力発電所。水車で発電機を駆動する水力発電所。一般家庭約300世帯分をまかなえる。延長約3kmの導水路のうち、中村地区にはアーチ橋がある。



④ 栗橋発電所・同水路橋

釜石製鉄所が1919~23年建設の、水車で発電機を駆動する水力発電所。一般家庭約300世帯分をまかなえる。延長約3kmの導水路のうち、中村地区にはアーチ橋がある。

かまいし鉄の遺産MAP



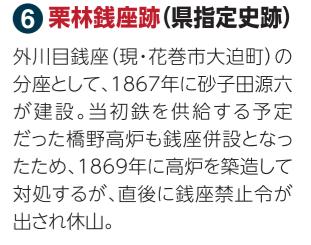
⑤ 釜石鉄道港桟橋

1894年、田中製鉄所第7高炉として操業開始。木炭を使い年間3,000tを生産する主要工場。高前、細越鉱山からトロッコで鉱石を運搬していた。1921年休山。現在は、火薬庫跡と山神社が残る。



⑥ 栗林銭座跡(県指定史跡)

外川目銭座(現・花巻市大迫町)の分座として、1867年に砂子田源六が建設。当初鉄を供給する予定だった橋野高炉も銭座併設となつたため、1869年に高炉を築造して対処するが、直後に銭座禁止令が出て休山。



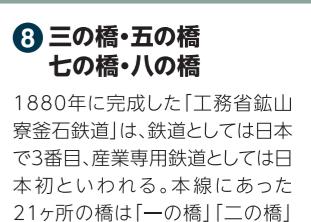
⑦ 釜石鉄道港桟橋

南桟橋と北桟橋があり、北は、釜石鉄道完成翌年の1881年に完成、1894年に夕張炭の受け入れを行った。南は、1918年建設。数回にわたる増強を行い全長518mに、1951年、釜石港は重要港湾に指定された。



⑧ 釜石鉄道港桟橋

1880年に完成した「工務省鉱山寮釜石鉄道」は、鉄道としては日本で3番目、産業専用鉄道としては日本初といわれる。本線にあった21ヶ所の橋は「一の橋」「二の橋」のように番号で呼ばれた。現存するのは三、五、七、八、三の橋は全長104.5m、五の橋は釜石鉄道中最長の118.2m。機関車の全重量18.75t、鉱石車40tをけん引し、時速16kmで走る輸送軌道の橋は、充分な強度で敷設された。五の橋は、昭和30年代に甲子川の洪水で一度流失している。



⑨ 鉄の歴史館の所蔵物・製鉄関連資料

製鉄の歴史や、大島高任をはじめ先人の業績を模型や資料で展示。橋野鉄鉱山の三番高炉を原寸大で再現し、映像とともに鉄づくりを体感できるシアターが必見。

⑩ C20型蒸気機関車

明治8年に着工し、日本で3番目に開業した産業用鉄道としてわが国初といわれる釜石製鉄所専用線(社線)で昭和18年から昭和40年3月まで使われていた。鉱石を運んだミニ蒸気機関車。



⑪ 大島高任像・鉄のモニュメント

近代製鉄の父・大島高任と、その長男・道太郎の業績を讃える石碑。日本の鉄の歴史が始まったこの地に、1942年12月建立された。上部の筆文字は、後に第56、57代内閣総理大臣を務めた岸信介が書いた。



⑫ 旧釜石鉄道事務所 (国登録有形文化財)

1951年に当時の日鉄鉱業が建設した総合事務所であったが、現在は市の鉱山に関する展示室となり、鉱石や歴史資料、鉱山で使われた道具などの資料約3千点を所蔵する。



⑬ 釜石鉄道本線カルバート残骸

貯鉱槽から鉱石を切り出す設備。釜石鉄道の生産増強が必要となり、原料の輸送効率を上げるために貨車積込設備が造られた。1950年10月の国鉄釜石線全通後は、大橋駅との連絡コンペアも完成。



⑭ インクライン跡

1935年9月、製鉄所裏山に鉛滓を引き上げる作業が始まった。急斜面にインクライン(勾配鉄道)を架設し、鉛滓鍋を使って上げ、西側斜面に流した。灼熱のノロが夜空を染めた。



⑮ 釜石鉄道中島橋

1937年ごろ、構造や施工法に当時の新技術を導入して造った、鉄道・車道兼用の橋。鈴子地区と中妻地区を結び、小佐野・松倉地区埋め立て用の鉛滓や、鉄物溶銑(溶けた鉄鉄)の運搬に利用された。



⑯ 釜石鉄道洞泉鉱山

1897年に創業し、1958年まで続いた石灰石山。採掘された石灰石は鉄索(空中ケーブル)で洞泉駅に運ばれ、大橋からの鉄鉱石運搬車に石灰石運搬車を連結して、製鉄所の置場に持ち込まれた。



⑰ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



⑱ 釜石鉄道小川レンガ橋梁 (市指定文化財)

釜石鉄道「第13の橋」といわれた橋梁。もともとは赤レンガ製だったが、現在はコンクリートで補強され、国道283号の一部となっている。拡幅前はほかにもあったが、現存するのは唯一。



⑲ 釜石鉄道洞泉鉱山

1897年に創業し、1958年まで続いた石灰石山。採掘された石灰石は鉄索(空中ケーブル)で洞泉駅に運ばれ、大橋からの鉄鉱石運搬車に石灰石運搬車を連結して、製鉄所の置場に持ち込まれた。



⑳ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉑ 釜石鉄道洞泉鉱山

1897年に創業し、1958年まで続いた石灰石山。採掘された石灰石は鉄索(空中ケーブル)で洞泉駅に運ばれ、大橋からの鉄鉱石運搬車に石灰石運搬車を連結して、製鉄所の置場に持ち込まれた。



㉒ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉓ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉔ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉕ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉖ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉗ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉘ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉙ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉚ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉛ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉜ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉝ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉞ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉟ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉟ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉟ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大鳥居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コクスによる鉄づくりが始まったときの銅鉄(初湯)で鋳造したもの。



㉟ 釜石鉄道山神社扁額 (重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大